



神話の源流

はじまりの物語

神々と共にある山の暮らし

諸塚・椎葉

神話の源流へ。
宮崎県

神話の源流へ。～みやざき神話ストーリー～

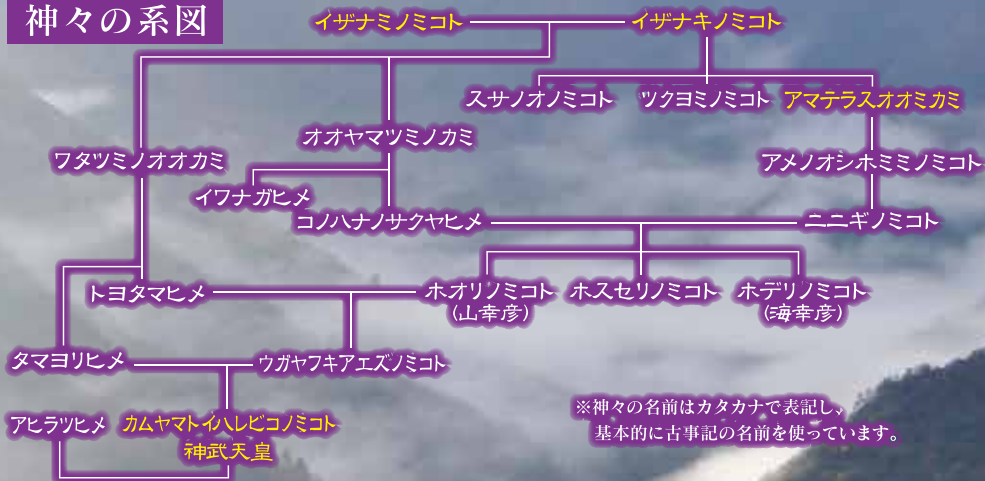
国生み・神生み 天岩戸開き

天地のはじめ、天上界・高天原たかあまのはらに原始の神々が現れ、最後にイザナキノミコトとイザナミノミコト（夫婦の神様）が現れました。二柱の神は、次々に国や神を生みますが、イザナミノミコトは、火の神を産んだ傷がもとで黄泉国よもつくにへ旅立ってしまいます。妻恋しさに黄泉国を訪れたイザナキノミコトでしたが、変わり果てた妻の姿に驚いて逃げ帰り、阿波岐原あわきがはらで穢れた体を洗い清めます。そのとき、三柱の貴い神、アマテラスオオミカミ、ツクヨミノミコト、スサノオノミコトが誕生しました。

ところが、スサノオノミコトが「黄泉国の母が恋しい」と言って高天原で暴れ回るので、困り果てた太陽の神・アマテラスオオミカミあまのいわやが天岩屋に閉じこもってしまいます。世界が闇に包まれてしまい、困った八百万の神々は、光を取り戻そうと力を合わせ、大宴会を開きます。アマテラスオオミカミが外の様子が気になって天岩戸あまのいわとを少し開けた瞬間、タヂカラヲノミコトが手を引いて連れ出し、再び世界に光が満ちあふれました。

原始以来の神々が祀られる諸塚村ともう1つの天岩戸開き伝説が残る椎葉村。大自然の中で、山間の人々の「神々と共にある暮らし」に触れる旅をはじめましょう。

神々の系図



国生み・神生みと天岩戸開きの物語が 息づく諸塚・椎葉へ

1 諸塚村 「信仰の山」の伝説をたどり、自然の恵みを 享受する旅 P.2

古から人々の信仰を集める諸塚山をいだく諸塚村。伝説をたどりながら四季折々の山々を楽しみ、自然がもたらす恵みを体中に吸収する旅へ

2 椎葉村 雄大な自然の中で人々が語り継ぐ物語を 肌で感じる旅 P.8

もう1つの天岩戸伝説や平家落人の恋物語が残る椎葉村。眼下に広がる景色に人々が守り伝える物語を重ね、悠久の時の流れに思いを馳せる旅へ

椎葉村・大いちょう展望台からの眺め (仙人の棚田)

[神話エッセイ]

清らかな空気につつまれた神楽の旅

小雪舞う1月、諸塚村を旅しました。村名の由来である諸塚山は、イザナキノミコト・イザナミノミコトの御神陵といわれ、カムヤマトイハレビコノミコト（神武天皇）がこの世の安寧のため神々をお祀りしたと伝わります。諸塚神社には31柱の神が祀られており、このように多くの神々が祀られた神社は珍しいとのこと。諸塚神社の近くにある立岩大明神は諸塚神社秋の大祭の御旅所となっています。ここは古より神々を大切にしてきた地なのです。澄み切った空気の中か感じたのは、山村の暮らしと神話のなかに脈々と流れる「山と神と人とのつながり」でした。

今回、旅の案内をしてくださった「しいたけの館21」の田邊薫館長は、諸塚村の自然、暮らし、祭りなど、1つ1つ丁寧に説明してくださいました。村に広がる、濃緑のスギ、落葉して赤みを帯びたクスギ、照葉樹林をなすシイなど、多様な木が織りなすパッチワークのような森林。それは、所有者ごとに適地適木を繰り返してきた長年の営みの結果できたものであり、森林の恵みを代々分かち合って暮らせるよう大切に守られてきたことを伺いました。共生の暮らしが営まれてきたのです。お昼に「どんこ亭」でシイタケ料理を堪能し、午後には原木シイタケ生産場を見学させていただきました。品質の良い諸塚の原木シイタケは、手間をかけて丹念に作られてきた山の産物であり、古民家の囲炉裏で生シイタケを焼いていただいたことは、口福としか言いようがありません。黒岳の福寿草も自然の賜物です。大自然と暮らしがすべて溶け合って、人を包み込む。その魅力が、出会った方々の笑顔とともに深く心に残りました。

諸塚村の冬は戸下地区と南川地区で夜神楽が行なわれます。今回は戸下神楽を見学させていただきました。初日の午後1時頃、戸下集落の上方にある白鳥神社で神事が行われた後、そこから舞い手が列になって神楽宿に向かい、神を集落に迎えて神楽が始まります。

日が沈むと、神楽宿に隣接する「脇宿」で、女性たち手作りの料理がふるまわれました。地元の人々、舞い手、来客者が一緒に美味しい郷土料理をいただく。神楽に集まった人々と神との共食であり、全てを受け入れて感謝する諸塚神楽の特徴を表しています。

夜が更け、若者たちが御神屋の脇で声をかけ合い、祭りがさらに盛り上がるなか、3体の荒神が神主と問答する演目「荒神」が始まりました。地主神や自然神と思われる荒神に、神主は人間が山を荒らした訳や祭りを続行する願いを述べて贈物を差し出しますが、荒神はすぐには納得しません。自然への畏れを物語る問答は圧巻です。怒りながらもやさしさを感じさせる荒神が印象的で、神と人が近い存在であることを間近で感じました。

深夜3時頃、少年たちの舞が行なわれます。子供たちの舞に大人たちも目が離せません。日が昇り始める頃、山稜を背に、岩戸に籠った太陽神・天照大神が春日大神に連れ出されて光を取り戻します。神話が目の前で繰り広げられてゆく。なんと感動的でしょう。響く太鼓の音を聞きながら、神と自然と人、そして長老から子供を結ぶつながりを感じました。

このつながりは海を越え、中国南部から東南アジアの照葉樹林の暮らしにも、神を迎えて村中の人々が共食する豊穰感謝祭や、山神をたたえる問答歌といった形でみられます。

諸塚村での2日間は、神と共にある山村の暮らしと共生の知恵のひろがりを感じた旅でした。

西南学院大学教授 金縄 初美



【執筆者紹介】

金縄 初美

西南学院大学文学研究科国際文化専攻博士後期課程修了。博士（文学）。著書『つながりの民族誌—中国摩梭人の母系社会における「共生」への模索』（春風社2016年）、主な論文「日本と中国西南地区の兄妹婚神話に関する比較研究—始祖誕生の過程を中心に—」（『東アジア古文化論攷』（高倉洋彰編 中国書店2014年）など。

奥深い山々に息づく信仰と
そこに伝えられた神代の
物語をたどる。

神代の起こりと伝わる「諸塚山」

古くから高千穂郷の神山として地域の人々に崇められてきた諸塚山は、山頂に多くの円墳（諸々の塚）があるとされ、これが諸塚山の由来となっています。イザナキノミコト、イザナミノミコトの御神陵といわれ、また一説にはニニギノミコト天孫降臨の地とも伝わり、神代の物語を感じることができます。

後の神武天皇となるカムヤマトイハレビコノミコトは、この世の安寧を願い高天原の神々をこの地にお祀りをしたと伝わります。天下を安らかに治める土地を求めて、この地から耳川を下り、美々津から大和へ向けてお舟出をされましたが、カムヤマトイハレビコノミコトがいなくなった後も、村人たちは神山を大切にお守りしてきたのです。

🍷 諸塚山

村名の由来となっている諸塚山は、村の北端、高千穂町との境に位置しています。別名、大白山とも呼ばれていて、古くから修験道の霊山としても知られています。登山口から1時間ほどで山頂まで登ることができ、天気の良い日は祖母山や阿蘇などを望むことができます。

お問合せ：諸塚村観光協会 TEL：0982-65-0178



諸塚山遥拝殿

🍷 アケボノツツジ

登山口周辺にはアケボノツツジが群生し、春の山々に鮮やかなピンク色の花を咲かせ、多くの登山客の目を楽ませてくれます。



🍷 諸塚神社

高天原の神々を含む31柱の神様をお祀りしています。これほど多くの神様をお祀りした神社は大変珍しく、この31柱を総称して大白太子大明神と呼んでいます。もともと諸塚山山頂付近に東西の神殿があったものが時を経て現在地へ遷座。現在、山頂付近には元宮が建てられています。

所在地：諸塚村七ツ山 7196

お問合せ：諸塚村観光協会

TEL：0982-65-0178



🍷 立岩大明神

諸塚神社の下流約400mのところとあり、船のような形をした巨石の上に祠が祀られています。諸塚神社の秋の大祭に行われる御神幸の御旅所となっています。

所在地：諸塚村七ツ山 6938-3

お問合せ：諸塚村観光協会

TEL：0982-65-0178



周辺観光Info.

Information

四季折々の山の恵みをいただく

🍷🍷 エコミュージアムもろつか しいたけの館 21

観光協会やレストランなどがある村の総合情報発信拠点。館内には村の自然や季節の見どころ、暮らしを紹介する展示や書籍、グッズの販売、積み木遊びのできるキッズコーナーなどがあります。

レストラン「どんこ亭」では、自然素材をふんだんに使用した料理が楽しめます。

所在地：諸塚村家代 3068

お問合せ：諸塚村観光協会

TEL：0982-65-0178





豊かな山の恵みを生かした
山村の暮らしにふれる。

パッチワーク模様の森林「モザイク林」

村人たちは、信仰の対象でもある山々を大切にお守りし、同時に山のもたらず豊かな恵みを楽しんできました。

スギ、ヒノキなどの針葉樹、クヌギを中心とした落葉広葉樹、そして天然林が織りなす「モザイク林相」は、長年の山の営みの中で急峻な山肌にパッチワーク状に形成され、山を守り、その恵みを持続可能なものになっています。

四季折々の雄大なパノラマを眺め、自然の恵みを生かした文化や食を満喫すれば、昔から山々を敬い、森とともに生きてきた人々の思いを知ることができます。

㊦ 矢村稲荷神社

境内に3本の大杉があり、樹齢は約600年と推定されています。幹の途中から枝分かれして、天を刺すように枝を広げています。

所在地：諸塚村七ツ山 5946-2

お問合せ：諸塚村観光協会

TEL：0982-65-0178



♻️ エコツアー 「諸塚でやま学校しよう！」

あるがままの自然とそこに生きる人々の生活に触れることのできる体験プログラム。1泊2日の定期ツアーや料理、創作など気軽に楽しめるメニューも豊富です。豊かな山の恵みに感謝しながら、くつろぎの一時を過ごすことができます。

お問合せ：諸塚村観光協会

TEL：0982-65-0178



♻️ 黒岳

諸塚村最高峰の標高1,455m。九州では珍しい福寿草の自生地となっているほか、キレンゲショウマやモロツカウミズサクランなど多くの稀少な植物の宝庫で一年を通して楽しめます。四季それぞれの魅力があり、それを求めて多くのハイカーや登山客が訪れます。

お問合せ：諸塚村観光協会 TEL：0982-65-0178



福寿草



キレンゲショウマ

周辺観光Info.

Information

大自然の中でのんびりと過ごす

♻️ 池の窪グリーンパーク

四季を通じて大自然を満喫できる森林公園で、特に夏は避暑地として人気が高い。アスレチック施設や草スキー、パターゴルフなどのレクリエーション施設も充実しており、村内産の杉材をふんだんに使用したログハウスに宿泊できます。

所在地：諸塚村家代池尻 3574-2

お問合せ：諸塚村観光協会

TEL：0982-65-0178



♻️ 森の古民家

山々に囲まれた昔ながらの古民家。「やましぎの杜」「藤屋」「へいだの里」「桜のつぼね」「よしや」の5軒があり、開け裏を開きながらみんなでゆったりとした時間を過ごすことができます。

お問合せ：諸塚村観光協会 TEL：0982-65-0178



[神話エッセイ]

山に伝えし神の舞 — 神楽と山河の恵み

^{ひむか}日向の国は、どこに行っても遙かむかしの神々の物語が、今も聞こえてくる。天と地という宇宙だけでなく、山野河海、そこに棲む鳥獣虫魚、足もとの草木や石にさえ宿る神や精霊の語りは、悦びの声で、癒しの声で、時には怒りの声で、届いてくる。

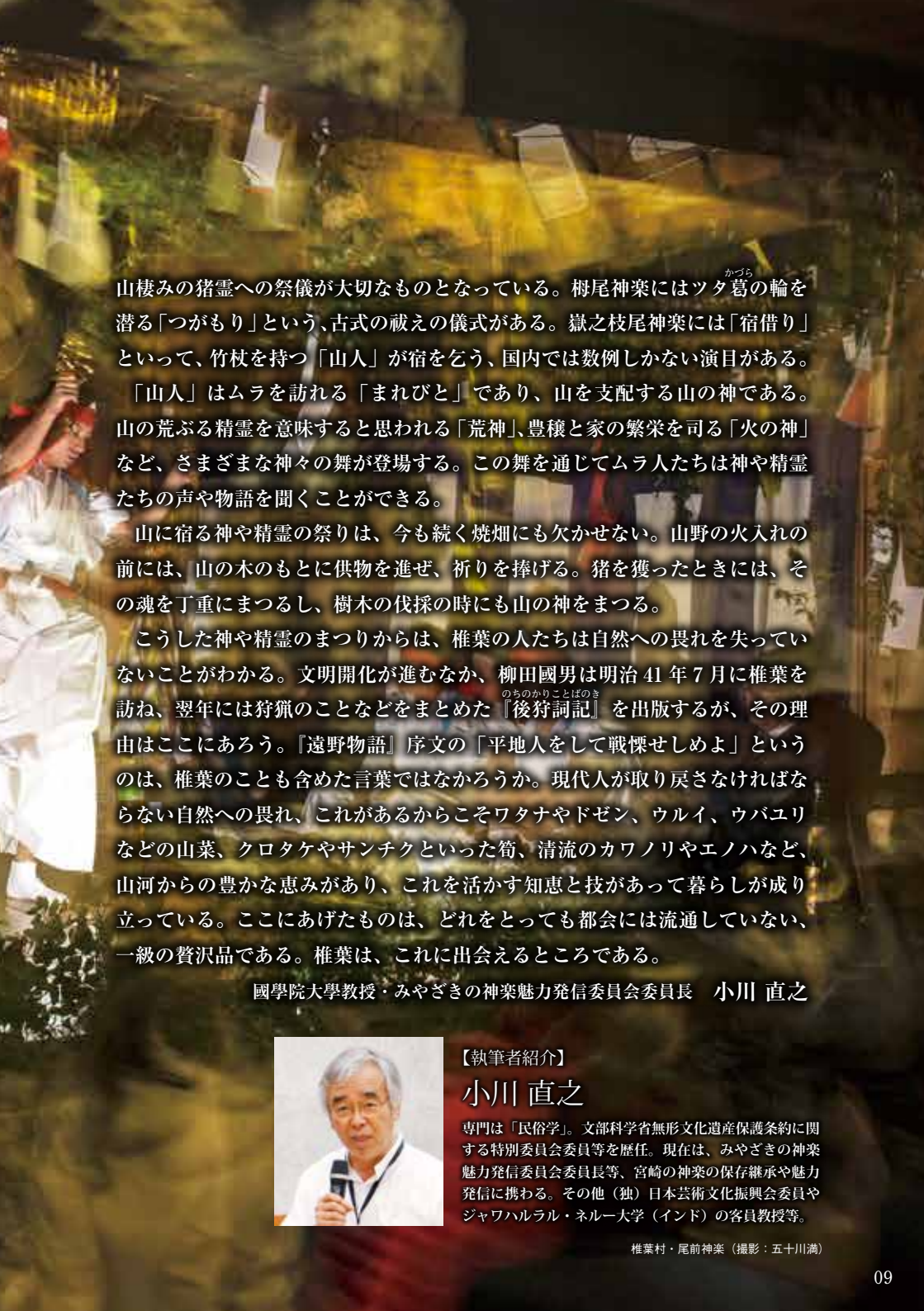
古事記や日本書紀に登場する日向の神話は、こうした声の一部にしかすぎない。記紀にはない、この地だけの神々の物語も多くあって、日向の人たちはこの声や物語を聞く術^{すべ}をもっている。だから日向は、“悠^{はるか}なる神の国”という方がふさわしいし、豊かな山と海、野の幸を得て、その神々のまつりをよくするところである。

なかでも椎葉は、多くの神楽を伝え、古式の神々がさきはう深い青垣の巖にある。そこにあるのは、山と森と川とに生かされる人々の、贅沢ともいえる暮らしてである。日向、そして椎葉は、こうしたところである。

その姿を椎葉を訪ねてみると、この地の26の神楽は、「椎葉神楽」の名で国の重要無形民俗文化財に指定され、関心を集め、ファンも多い。

11月中旬から12月にかけてムラの祭りとして夜を徹して行われる神楽は、ここに集う人たちに神々が新たな力を授ける「たまふり（鎮魂）」の舞いである。この時には、ムラの神が鎮座する森の大樹に「森の神」や「荒神」をまつり、ここから舞殿の御神屋に神迎えをする。

神楽には多くの演目があって、尾前神楽などには、神前で猪の頭を俎板にのせ、山の幸である猪の霊に感謝し、その肉を舞い手たちに取り分ける「板起こし」がある。日本の祭りでは、通常、獣肉は使わないが、椎葉の冬祭りは、



山棲みの猪霊への祭儀が大切なものとなっている。梶尾神楽にはツタ葛^{かづら}の輪を潜る「つがもり」という、古式の祓えの儀式がある。獄之枝尾神楽には「宿借り」といって、竹杖を持つ「山人」が宿を乞う、国内では数例しかない演目がある。「山人」はムラを訪れる「まれびと」であり、山を支配する山の神である。山の荒ぶる精霊を意味すると思われる「荒神」、豊穡と家の繁栄を司る「火の神」など、さまざまな神々の舞が登場する。この舞を通じてムラ人たちは神や精霊たちの声や物語を聞くことができる。

山に宿る神や精霊の祭りは、今も続く焼畑にも欠かせない。山野の火入れの前には、山の木のもとに供物を進ぜ、祈りを捧げる。猪を獲ったときには、その魂を丁重にまつるし、樹木の伐採の時にも山の神をまつる。

こうした神や精霊のまつりからは、椎葉の人たちは自然への畏れを失っていないことがわかる。文明開化が進むなか、柳田國男は明治41年7月に椎葉を訪ね、翌年には狩猟のことなどをまとめた『^{のちのかりことばのき}後狩詞記』を出版するが、その理由はここにある。『遠野物語』序文の「平地人をして戦慄せしめよ」というのは、椎葉のことも含めた言葉ではなかるうか。現代人が取り戻さなければならぬ自然への畏れ、これがあるからこそワタナやドゼン、ウルイ、ウバユリなどの山菜、クロタケやサンチクといった筍、清流のカワノリやエノハなど、山河からの豊かな恵みがあり、これを活かす知恵と技があって暮らしが成り立っている。ここにあげたものは、どれをとっても都会には流通していない、一級の贅沢品である。椎葉は、これに出会えるところである。

國學院大學教授・みやざきの神楽魅力発信委員会委員長 小川 直之



【執筆者紹介】

小川 直之

専門は「民俗学」。文部科学省無形文化遺産保護条約に関する特別委員会委員等を歴任。現在は、みやざきの神楽魅力発信委員会委員長等、宮崎の神楽の保存継承や魅力発信に携わる。その他（独）日本芸術文化振興委員会やジャワハルラル・ネルー大学（インド）の客員教授等。

椎葉村・尾前神楽（撮影：五十川満）

もう1つの天岩戸伝説を生んだ
山岳信仰の神秘に触れる。

大自然の中で古の人々がみた 神々の姿に会う

天岩戸開き神話ゆかりの地と伝わる場所は全国各地にあります。椎葉村尾前地区にある「岩戸」「土岩戸」と呼ばれる場所もその1つです。かつて修験者の修行の場として祀られていたとされる洞窟で、「もう1つの天岩戸」と呼ぶ地域の人々も。

九州脊梁山地の懐深く、「日本三大秘境の地」ともされる椎葉に暮らす人々は、厳しい自然の中に侵すことのできない神聖な存在を見だし、大切に守り伝えてきました。

豊かな自然に包まれながら、太古の神々の面影を探しに出かけましょう。

岩戸・土岩戸

村の北西部、尾前地区にある天然の洞穴。山岳修験の修行の場であったものが途絶え、そのままになっていたものを地域の人々が道を整備し、現在ではトレッキングツアーが開催されるまでに。ハート型にみえる土岩戸の洞口などが訪れた人を楽しませています。

所在地：椎葉村尾前
お問合せ：椎葉村観光協会
TEL：0982-67-3139



ツリーハウス

「椎葉ならではの遊びができる場所を」との思いから、地元の方がつくったツリーハウス。想像以上の高さに驚きますが、そこからの眺めは絶景です。



落ち水の滝

全長70m、3段の大きな滝。人々はこの滝の水が濁れないよう、「ごうさま」と呼ばれる水神様を祀り、昭和の初め頃までは、「ごうさま鷹」がこの一帯を見守るように飛び回っていたと伝わります。

所在地：椎葉村中椎葉
お問合せ：椎葉村観光協会
TEL：0982-67-3139



冬の尾前渓谷

尾前渓谷

「九州の屋根」脊梁山地の麓にある渓谷。大転石群と四季折々の表情をみせる木々、そして清流が織りなす情景は感動的。九州随一のヤマメの生息地としても知られます。

所在地：椎葉村尾前
お問合せ：椎葉村観光協会
TEL：0982-67-3139

周辺観光Info.

Information

自然と人が創った絶景に浸る



大いちょう展望台からの眺め

仙人の棚田

名前の由来は、「天空に浮かんでいるように見え、まるで仙人が住んでいるよう」だから。春から秋は青々しい緑、秋には金色の稲穂と四季折々の表情をみせます。対岸の大いちょう展望台から一望可。

所在地：椎葉村下松尾
お問合せ：椎葉村観光協会
TEL：0982-67-3139

上椎葉ダム

高さ111m、長さ341m、総貯水量9155万m³のアーチ式コンクリートダム。日本初の大規模アーチ式ダムで、後の土木技術に大きな影響を与えました。雨の多い時期には雄大なダム放水が見られることも。

所在地：椎葉村上椎葉
お問合せ：椎葉村観光協会
TEL：0982-67-3139



鶴富姫と那須大八郎。

語り継がれる恋物語をたどる。

平家落人伝説と椎葉の人びと

今から800年ほど前のこと。激しい戦いの末に敗れた平家の残党を追って、源氏方からひとりの武将・那須大八郎が椎葉を訪れます。しかし、そこで目にしたのは、戦う気持ちを忘れ、一心に畑を耕す平家の人々。大八郎は「残党は全て討ち果たした」と嘘の報告をし、平家の人々と共に椎葉の地に住むことになりました。

その後大八郎は、鶴富姫という美しい姫と出会い、恋に落ちます。源氏と平家、敵同士の2人でしたが、生涯を共にすることを決め、村中が祝福しました。しかし、幸せな日々は長く続かず、大八郎に帰還命令が下ります。身ごもっていた鶴富姫に、大八郎は「生まれた子が男の子なら私のもとへ、女の子ならこの地で育てるように」と言って、親子の証拠として刀を残します。

後日、鶴富姫は女の子を出産。大八郎の言葉のとおり、椎葉の地で大切に育て、成長すると婿を取らせました。そして、愛する人・大八郎の「那須」の姓を名乗らせたといいます。

大八郎と鶴富姫。2人の物語を語り継ぐ椎葉の人々の温かさに触れれば、伝説の地を巡る旅がさらに味わい深いものになるはずです。

卍 十根川神社

古くは八村大明神と呼ばれ、縁結びの神様として親しまれる神社です。境内のひとときわ大きな八村杉（別名：十根の杉）は、高さで国内2番目、根回りで国内4番目の大きさを誇り、大八郎自らが植えたとも伝わる巨樹です。

所在地：椎葉村下福良十根川
お問合せ：椎葉村観光協会
TEL：0982-67-3139



八村杉



卍 椎葉巖島神社

戦う気持ちを忘れ、慎ましく暮らす平家の人々の姿を哀れんだ大八郎が、巖島神社（広島県）の守護神（イチキシマヒメノミコト）を勧請して建立したと伝わる神社です。

所在地：椎葉村上椎葉
お問合せ：椎葉村観光協会 TEL：0982-67-3139

🍷 鶴富屋敷

大八郎の妻となった鶴富姫の住まいと伝わり、大八郎と鶴富姫の悲恋の舞台とされています。大きく太い材料を使用した椎葉独特の形式で建てられており、「那須家住宅」として昭和31年に国の重要文化財に指定されました。

所在地：椎葉村上椎葉 料金：大人200円、小人100円
営業時間：9:00～17:00 お問合せ：椎葉村観光協会
TEL:0982-67-3139



周辺観光Info.

Information

人々の暮らしに息づく物語をたどる



🍷 平家まつり

椎葉村の秋の風物詩で、ハイライトとなる「大和絵巻武者行列」は、平安時代を彷彿とさせる武者姿、姫姿等の人々か源氏方・平家方に分かれ、大八郎と鶴富姫の逢瀬を再現します。

開催日：毎年11月第2金曜日～日曜日
開催場所：椎葉村中心部
お問合せ：椎葉村観光協会 TEL：0982-67-3139

🍷 十根川重要伝統的建造物群保存地区

「椎葉型」といわれるこの地域独特の建築様式の民家や隣接する馬屋・倉、それらを支える石垣が樹木林と調和した歴史的景観は、国の伝統的建造物群保存地区に選定されています。

所在地：椎葉村下福良十根川
お問合せ：椎葉村観光協会
TEL：0982-67-3139



諸塚・椎葉の神楽

宮崎県内各地では、その年の実りに感謝し、舞に地域の神々への祈りを込めた伝統神事芸能「神楽（かぐら）」が行われています。宮崎の神楽は、地域神話や生活に根ざした歴史性、多様性を持ちます。ぜひ現地に神楽を見に行ってみませんか？

宮崎県指定無形民俗文化財

諸塚神楽

諸塚村には、県指定無形民俗文化財の戸下神楽、南川神楽、桂神楽の3つの神楽とその周辺神楽があり、特色は200以上もの様々な神楽面が残されていること。神楽のはじめに行われる「舞入れ」で、神面が一同に並んで道神楽を舞う様子は圧巻です。

舞には日向神話の神々もこの土地ならではの神々も登場します。観客からも「神楽ぜき」と呼ばれる神楽を盛り上げる歌の掛け合い（せり歌）が飛び交い、舞手、太鼓、観客の三者が一体となって神楽を盛り上げます。

また、「脇宿（わきやど）」と呼ばれる、近隣の民家が神楽への参加者をもてなす習慣が残っているのも特色の1つです。



南川神楽「三宝荒神」



桂神楽「八幡」



戸下神楽「権現」
撮影：五十川満

○戸下神楽

時期：1月最終土曜～日曜、会場：戸下集会所

※10数年に一度の大神楽（大成就神楽）では、特別な演目が10番ほど加わります。

○南川神楽

時期：2月第1土曜日～日曜日

会場：5つの地区（梅の木・松原・佐礼・小弘・中尾）の集会所や民家が会場となり、毎年交代で実施されます。

○桂神楽

時期：不定期、会場：諸塚神社、桂正八幡神社ほか

※春の例大祭などで神楽3番を、宮遷宮や神殿の改築、お日待ちの願成就といった特別な場合に大神楽（夜神楽）が奉納されます。

※詳細は、諸塚村観光協会（<http://www.morotsuka-tourism.jp>、TEL.0982-65-0178）

国指定重要無形民俗文化財

椎葉神楽

椎葉村の26の集落ごとに夜通し行われる神楽は、地元では「冬祭り」「年祭り」とも呼ばれ、椎葉の村人にとって1年を締めくくる大切な祭りです。

特色として、集落ごとに舞や衣装、太鼓の調子も多種多様で、「板起こし」「森の弓」など、演目の中に「狩猟神事」が織り込まれていることや、日本土着の神の信仰と外来の仏教の信仰とが融合した「神仏混淆（しんぶつこんこう）」の唱教が多く残っていることなどがあります。



大河内神楽「太力」



嶽之枝尾神楽「願成就神楽」



尾前神楽「森の下」
撮影：五十川満

○各地区での奉納

時期：毎年11月中旬～12月中旬 会場：各地区の公民館など

○椎葉神楽まつり

開催日：毎年4月下旬～5月上旬 会場：椎葉開発センター

○平家まつり

開催日：毎年11月第2金曜日～日曜日 会場：椎葉村中心部

※詳細は、椎葉歴史民俗博物館（TEL：0982-68-7033）まで

諸塚・椎葉の特産品

豊かな自然とそこに息づく文化が育んだ逸品たち ―。神話の旅と一緒にいかがですか？

百花蜜

諸塚の山中でニホンミツバチが越冬のために蓄えた貴重な蜂蜜。四季折々に山を彩る様々な草木の花々から集められた濃厚な蜜は、採れた場所ごとに風味が変わります。



めんば

諸塚で林業従事者を中心に愛用されてきたお弁当箱。木が水分を調節するのでご飯が美味しく食べられます。木の香りとぬくもりを贈り物にしませんか。



どんこ

寒冷期にじっくりと成長し、傘が開ききる前に収穫する肉厚な椎茸。諸塚は椎茸栽培発祥の地ともいわれており、栽培方法がFSC®森林管理協議会の認定を受けるなど高く評価されています。

菜豆腐

冠婚葬祭のおもてなしに用いられてきた椎葉の郷土料理。季節の野菜が入っており、四季折々の味や彩りが楽しめます。



椎葉そば

村外に出回ることほとんどない、貴重な日本古来の在来種で生産される椎葉のそば。小さな粒ですが、香り高く粘り強いのが特徴です。



豆腐かりんとう

昔ながらの製法で作られた椎葉の生豆腐をかりんとうに。10時間焼いた自家製焼塩を味付けに使っており、素朴で飽きの来ない味です。



世界農業遺産 ～高千穂郷・椎葉山地域～

諸塚村・椎葉村を含むこの地域は、椎葉村の焼畑、諸塚村のモザイク林形成など、山間地の環境で育まれた特徴的な農林業や地域連帯の中で、神楽など特色ある伝統文化が継承してきたことが高く評価され、国際連合食料農業機関（FAO）により、2015年に世界農業遺産に認定されました。

諸塚・椎葉MAP



諸塚コース

諸塚山遥拝殿 (P.5)
諸塚山 (P.5)
アケボノツツジ (P.5)

諸塚神社 (P.5)
立岩大明神 (P.5)

桜のつぼね (P.7)
池の窪
グリーンパーク (P.7)

矢村稲荷神社 (P.7)

へいだの里 (P.7)

諸塚小学校

諸塚村役場

諸塚中学校

よしや (P.7)

エコミュージアムもろつか
しいたけの館21 (P.5)

諸塚村

黒岳 (P.7)

八村杉 (P.13)

やましぎの杜 (P.7)

十根川重要伝統的
建造物群保存地区 (P.13)

十根川神社 (P.13)

大いちょう展望台

仙人の棚田 (P.11)

椎葉村

岩戸・土岩戸 (P.11)
ツリーハウス (P.11)

尾前渓谷 (P.11)

落ち水の滝 (P.11)

鶴富屋敷 (P.13)

椎葉岐島神社 (P.13)

上椎葉ダム (P.11)

椎葉小学校

椎葉中学校

椎葉村役場

椎葉村観光協会

椎葉コース1

椎葉コース2



おすすめ観光ルート

諸塚・椎葉の魅力がたっぷり味わえる
とっておきのスポット満載ルート

山岳信仰や神代の起こり、平家落人伝説が残る諸塚・椎葉。
奥日向の雄大な自然と山間の人々の暮らしに触れる旅へ出よう！

諸塚コース

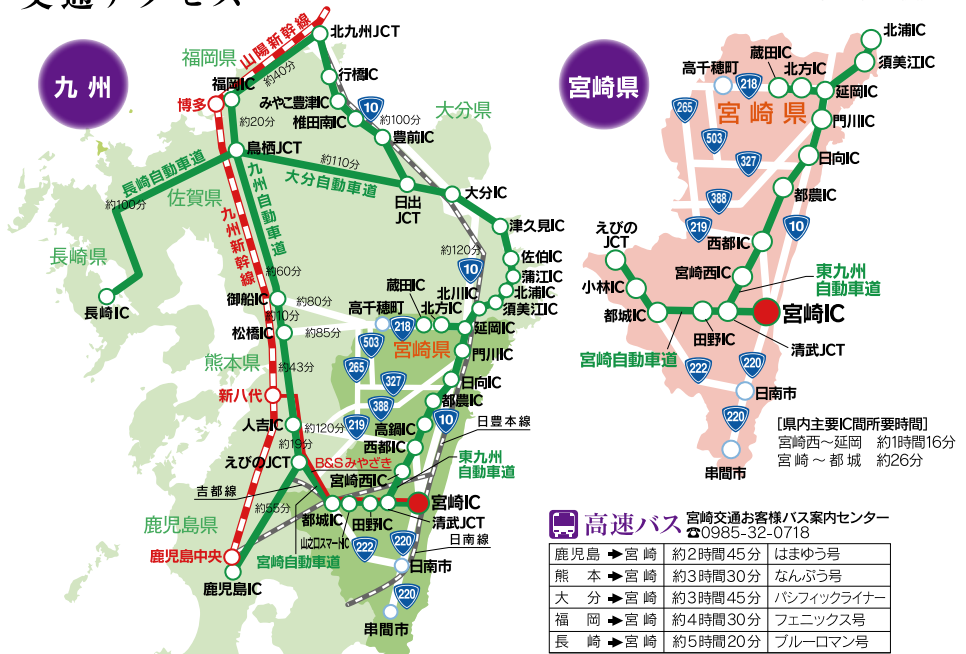


椎葉コース



交通アクセス

※2019年3月現在の情報です



【県内主要IC間所要時間】
宮崎西～延岡 約1時間16分
宮崎～都城 約26分

高速バス 宮崎交通お客様バス案内センター ☎0985-32-0718

鹿児島 → 宮崎	約2時間45分	はまゆう号
熊本 → 宮崎	約3時間30分	なんぶろ号
大分 → 宮崎	約3時間45分	パンフィックライナー
福岡 → 宮崎	約4時間30分	フェニックス号
長崎 → 宮崎	約5時間20分	ブルーロマン号

新幹線・JR特急

JR 宮崎駅
☎0985-23-3454

新大阪駅	山陽新幹線	博多駅	九州新幹線	新八代駅	日豊本線		宮崎駅
					大分駅	鹿儿岛中央駅	
					高速バス		
					B&Sみやざき号/約2時間3分	(新八代～宮崎)	
					B&Sみやざき号/約3時間4分	(博多～宮崎)	
					B&Sみやざき号/約5時間43分	(新大阪～宮崎)	

※所要時間は最速

空路(宮崎空港)

ANA(羽田) → 宮崎	約90分	ANA,JAL,ソラシドエア	全日空(ANA)	オリエンタルエアリッジ(ORC)
JAL(羽田) → 宮崎	約90分	ジェットスター	国内線 ☎0570-029-222	☎0570-064-380
ANA(羽田) → 宮崎	約75分	ANA	日本航空(JAL)	アジアナ航空
ANA(羽田) → 宮崎	約65分	Peach	☎0570-025-071	☎0570-082-555
JAL(羽田) → 宮崎	約60分	ANA,JAL	ソラシドエア	チャイナエアライン
JAL(羽田) → 宮崎	約45分	ANA,JAL,ORC	☎0570-037-283	☎0985-64-9811
JAL(羽田) → 宮崎	約80分	ソラシドエア	Peach	イースター航空
JAL(羽田) → 宮崎	約100分	ソラシドエア	☎0570-200-489	☎050-5520-6712
JAL(羽田) → 宮崎	約180分	チャイナエアライン	ジェットスター	
			☎0570-550-538	

カーフェリー(宮崎港)

三宮(神戸港)	19:10発(月～土) 18:00発(日) 翌日7:30着	→	翌日8:40着	宮崎	宮崎カーフェリー予約センター 神戸 ☎078-321-3030 宮崎 ☎0985-29-5566
		←	19:10発		

宮崎県 総合政策部 記紀編さん記念事業推進室

〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号 電話:0985-26-7099



Facebook
「神話のふるさと みやざき」



神話のふるさと みやざき